

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293100028		
法人名	社会福祉法人 天祐会		
事業所名	グループホーム天羽苑		
所在地	千葉県富津市不入斗224-1		
自己評価作成日	平成23年12月20日	評価結果市町村受理日	平成24年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成24年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑の周りのはのかな田園風景です。苑からは雄大な富士山を眺めることもできます。開苑より5年が経過し、地域住民との交流も定着してきました。苑の責任者は地区社協の推進委員を務めたり、買い物は近隣商店を利用したりして関わりを多くするようにしております。苑内はグループホームの他に、デイサービスと知的障害者のケアホームが併設されており、高齢者・障害者共に協力して生活しております。利用者様が天羽苑に住んでよかった。ご家族様からも安心してご利用していただけるような環境や信頼関係を大切に、家庭的なサービスを心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は「高齢者福祉」「児童福祉」「障害者福祉」の共生の実現を目指している。医療との連携体制がよく取れており、健康相談をしたり、病状の変化にはすぐに対応している。医師との連携のもと、看取りの体制が確立しつつある。身体拘束については、入居時にも家族によく説明しており、日頃の生活の中で職員同士で気づいた時には注意しあったり、会議で話し合うなど、身体拘束しないケアに徹している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が入職する際には、法人の理念を説明している。理念は職員にも浸透してきており、特に「心」のサービスを提供し、利用者第一に考えるということを職員に徹底している	新人研修で理念について研修を行っている。現任職員全員が共有できるように毎月の会議で唱和し「やさしさ」「思いやり」「暖かさ」のあるサービスに努めている。	理念は職員間に浸透してきているが、今後もますます徹底させて、実践につなげることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校や商店との交流があり、地区社協の視察旅行や懇談会の参加も積極的に行っている。また、地区民生委員や会長さんとの連絡や交流も密となっている	管理者は地区住民、民生委員、小学校の校長先生等との交流を大切にしている。小学生がホームを訪問し、自分たちが考えてきたゲームと一緒に楽しんだり、朗読をするなどしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議には地域の民生委員や社協の会長さんにも参加していただいたり、年に一度ご家族をご招待して芋煮会(家族会のようなもの)を開催している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に数回、市の職員、地域の区長や民生委員、職員と運営会議を行い、連携を構築している	運営推進会議は民生委員、区長、市職員、家族などの参加で年2回開催している。同日に芋煮会を開催するなどして、家族が参加しやすいように工夫している。意見を聞き、サービスの改善に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員で生活保護担当職員が入居者の担当であるため、利用料を支払いに来苑したり、苑の責任者が介護認定審査会の委員をしているために、情報交換をしたり協力体制は構築できている	市職員の定期的な訪問があり、管理者、計画作成担当者が、担当職員と情報交換を頻繁に行う機会がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修へも積極的に参加させ、現在まで数人参加しており、日常の業務の中でも教育し、徹底的に取り組んでいる。またご家族にも身体拘束をしないことを入所時にも説明している	日常のケアの中で、身体拘束に該当することがないか意識するよう取り組んでいる。気づきがあったときは、職員同士で注意しあったり、会議で検討し全体の問題として理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修があれば職員にも参加させている。グループホーム以外の利用者様にも身体状況等を把握し常に観察している		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見制度を利用しているご利用者様もいるので、学ぶ機会も持つことができる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面だけではなく口頭にて説明し、後でトラブルにならないよう細かく説明し、理解していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には、ご利用者様の様子等を報告し、ご家族とも情報を交換したりし、意見や要望等もあれば聞くようにしている	面会来訪時に話やすいように、職員側から声掛けをして、家族の意見を聞くようにしている。毎月状況報告をしており、家族の意見を反映するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で改善策や提案を聞いている。そのことについて職員で話し合い問題を解決している	毎月グループホーム会議を行い、職員が意見を出しやすいようにコミュニケーションを取りながら、意見提案を聞いている。ホームで解決できない事は法人本部に伺い書を提出をして、実現に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は細目に施設を巡回し、施設の問題や職員の勤務状況、職員配置等を確認し、評価に繋げている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長会議などの場や普段の施設巡回時に助言や要望を聞いてくれる。また職員に声をかけ、管理者の報告や確認により、人事考課にも繋げてくれる。毎月本部での施設長会議での研修と本部で開催される職員研修を受けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会へは積極的に参加するよう指示してくれる。そして多くの交流の場を持つよう助言してくれる		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員はご利用者様とは毎日必ず関わりを持ち、会話を大切にしている。その会話の中から本人の要望や心配事を聞いている。そしてご本人が安心して生活できるよう、助言をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所された翌日は、必ずご家族に利用者様の様子を電話にて報告している。連絡を密にすることで信頼関係を築いている。また時にはご家族の困っていることに耳を傾け、ご家族の話を傾聴する		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況や精神状況に加え、ご家族の介護負担も考慮し、ご本人とご家族にとって何が今、一番必要なのかを見極めた上での支援ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様は人生の先輩だということを日頃より職員に認識させ、同等な立場ではなく、自分の立場を認識しながら良好な関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会の機会を多くしていただけるようお願いをしている。ご家族に苑での生活の意向を聞いて、それに添ってご本人にとって一番よい支援を共に共有して支えあっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に対し、ご利用様との絆が途切れることのないよう、面会や外出、外泊を受け入れてもらえるよう働きかけている	お盆や、お正月の外泊やお墓参り、美容室の利用等、本人の希望が叶えられるように、家族に働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべく居室にこもらず、孤独にならないように、談話室で皆さんで過ごせるよう働きかけに努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為の退所であれば、時々ご家族に連絡を取り経過を伺ったり、それ以外であればお電話をしたり、独居であれば訪問したりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との日常の会話の中で確認し、把握している	本人の話したことは、会話をそのままに記録することを徹底し、本人の意向、思いを逃がさないようにしている。介護支援経過は詳細に記録されている。アセスメントの様式もいろいろと考慮しており、本人の生活歴にも注意を払っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人の生活歴をご家族より詳しく聞いて、なるべく今までの生活習慣を変えずに過ごせるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や体重測定や様子観察による身体状況の把握と、日中はその人の状況に合った無理のない支援をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時に現在のご利用者様の状態を報告したり、職員会議で個別のケアの仕方を話し合い、意見を出し合い介護計画に繋げている	月一度開催するグループホーム会議で入居者一人ひとりの情報を全員で共有している。その情報を元に個別ケアの変更をしたり、介護計画が作成されている。モニタリングは毎月行い、状況の変化に応じて介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別にケース記録に記入し、出勤時に職員は必ず目を通し、申し送りノートを活用することにより、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人それぞれのニーズや状況に合わせた対応をしている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全て職員がやるのではなく、自分でできることはやれるよう職員が見極めをし、見守りながら安心して暮らせるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ全員は、協力病院による居宅療養管理指導にて、健康相談や健康維持、病状の安定を管理し、緊急時はもちろんのこと、365日、24時間体制で協力病院と連携している	家族、入居者の意向は確認しているが、現在はほとんどが協力病院の訪問診療で管理指導を受けている。内科以外は家族の送迎、付き添いで受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はケース記録、申し送りとご利用者様の身体状況、精神状態を観察・確認し変化は見逃さず、報告・連絡・相談で早めの対応で支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院やご家族に病状の経過を聞き、確認して面会に行ったりしている。また病院のケースワーカーとも連携している。退院時には看護サマリーを必ずいただき常に情報の共有化を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設や協力病院が連携して支援できる範囲内で医師、看護師、ご本人、ご家族、職員で話し合い方向性を統一してご家族には同意書をいただいている	ターミナルの必要が生じた時、家族と話し合いをし同意書を交わしている。すでに2件の看取りを行っている。医療機関との関係は密接で、看護師との連絡は密にとり、訪問は頻繁に行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時にご利用者様の全情報がわかるファイルを作成し、状況に応じたマニュアルも作成している。特に定期的に訓練はしていないが、苑内研修にて毎月勉強会は開いている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年の地震にて多くの職員が経験しましたが、今までの考えが浅はかだったことを痛感した。すぐに地震を想定した訓練を実行した。地域運営推進会議にて協力体制については働きかけている。今回、地域の方が発電機を貸してくれるなど、協力体制を得られた	まもなく全館にスプリンクラーが設置される予定になっている。避難訓練は年2回行われ、そのうち1回は夜間の訓練をしている。職員も近隣に居住している人がおり、協力が期待できる。災害時に備え備蓄もしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様はお客様であり、目上の人であるということを職員には常に認識させ、ご利用者第一で、やさしい声掛けや受容的な姿勢で接している	昼食時の職員の対応は穏やかで、丁寧であった。日頃の会話、声掛けも気を配り、注意しあったり、会議で検討する場合もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば食事の好みや、外出したい場所等、本人の思いや希望も傾聴し、自己決定できるよう支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、一人ずつリズムは違うので、時間にとられず、職員の都合で進めるのではなく、何事もご利用者様を優先に考えている。それは職員に徹底している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活習慣は大切に、歯磨き、洗顔、男性なら髭剃りなどの整容、身だしなみは欠かさず行っている。衣服に関しては、ご自分でできる方は選んでいただいたり、職員と一緒に準備したりしている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態はその人に合わせて提供している。食べたいものを聞いたり、時々外食に出かけたり、出前をとる等している。その時もご本人の好きな物を食べていただく。食事の準備はできないが、テーブル拭きや食器拭きはやっていただいている	食事はそれぞれの入居者が食べやすい形態で提供されていた。食器も軽く、食べやすい形の食器が使用されている。食材は毎日買い物に行き、旬の物を取り入れた食事になるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、食事摂取量や水分摂取量は常に把握している。摂取量が不十分な方については、栄養補助食品を追加したり、食事の形態を変えたり、工夫して摂取できるようにしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず、口腔ケアを実行し、食物残渣物を取り除き、義歯については毎日就寝前に洗浄して、清潔を保持している			

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを確認し、トイレ誘導したり、トイレの声掛けをしたり、本人の行動による気づきによって自立できるよう支援している。	排泄チェック表があり、排泄パターンをつかむことで、トイレ誘導の声掛けをしている。パットのを使用することもあるが、ほとんどの人が日中は普通の下着、夜間はリハビリパンツやパットで生活している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排泄パターンを把握し、また便秘予防で全員に毎日野菜ジュースを飲んでいただいている。これが効果があるようです。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的には隔日。ゆっくり入浴していただく為に、平日は個室にし、土・日は大浴槽で入浴していただくなど、変化を楽しんでいる	平日はゆっくりと一人ずつ入浴し、土・日は併設のデイサービスセンターの大浴槽で気分を変えている。入浴時間は午前中、隔日が基本となっているが、状況に応じて個々に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者個人に合わせた日中の休息をとりながら散歩やレクリエーションを取り入れている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に処方箋ファイルを作成している。職員は担当者を決め、薬のセット、残数を確認している。また薬の変更にも注意している。ご利用者様の変化については、見逃さず協力病院の医師や看護師に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や外出をしたり、天気の良い日には外でレクリエーションをしたりして気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や外食などの機会を作り、生活に楽しみや張り合いが持てるようにしている。ご家族も外出にさせてくれたりしている	お盆、お彼岸の墓参りは、家族が対応している。入居者の希望に沿ってドライブに出かけている。外食をしたり、外気浴、散歩等を日常に取り入れている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については管理能力がない為、施設で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望によりご家族に電話をしたい時には見守り介助して使用している。それによって気分が落ち着いたりする		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出や行事に参加した際の写真を掲示したり、室温や明るさ、季節を感じることで飾り付けなどにも常に配慮している。時々席替えをしたりしている	天井が高く、広々とし、明るい印象を受ける建物である。リビングにはソファ、テレビ、カラオケ等が設置してあり、寛げる空間である。	広々とした作りである為に、温度管理、湿度管理が難しくなっているようである。こまめな調整が期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の談話室にもソファを置いて自由に過ごしていただいたり、テーブル以外にも過ごせる場がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全て個室となっている。入所時にはご家族に家で使用していたものをなるべく持ってきていただき、混乱することがないように、また自宅の延長になるように配慮している	部屋は明るくシンプルである。入居者はそれぞれ馴染みの物を持ち込んで、一人ひとり自分らしい居室をつくらせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員はご本人ができることとできないことを見極め実行する。危険なものは排除し、安全で快適な環境を作っている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所